

富山県における イタイイタイ病対策

日本における公害病第1号となったイタイイタイ病の発生からおよそ100年の時を経て、平成25年末、神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会と三井金属鉱業株式会社が、歴史の大きな節目となる「神通川流域カドミウム問題の全面解決」の合意に至りました。このコーナーでは、これまで富山県が環境省のご指導をいただきながら進めてきたイタイイタイ病対策についてご報告したいと思います。

1 イタイイタイ病対策の主な経緯

- ・昭和36年 「富山県地方特殊病対策委員会」設置
- ・昭和42年 「イタイイタイ病患者及び疑似患者等に関する特別措置要綱」制定
- 「イタイイタイ病審査協議会」設置
- ・昭和43年 厚生省においてイタイイタイ病に関する見解を発表
- ・昭和47年 環境庁公害保健課長通知「公害に係る健康被害の救済に関する特別措置法によるイタイイタイ病の認定について」
- ・昭和49年 「公害健康被害補償法」施行(昭和63年「公害健康被害の補償等に関する法律」に改称)
- ・昭和54年 環境庁委託および富山県単独事業として、神通川流域の住民健康調査開始
- ・平成元年 環境庁「イタイイタイ病及び慢性カドミウム中毒に関する総合的研究班」がカドミウムの健康影響に関する研究中間報告書発表
- ・平成2年 富山県が県単独住民健康調査結果発表
- ・平成4年 環境庁「骨軟化症の診断における病理組織学的検査

の意義に関する研究」報告書発表

- ・平成7年 環境庁「イタイイタイ病の認定における骨軟化症の判定等について」通知、「カドミウム汚染地域住民健康影響調査検討会」設置
- ・平成9年 環境省「神通川流域住民健康調査の今後のあり方について」(中間報告)取りまとめ
- ・平成21年 環境省「カドミウム汚染地域住民健康影響調査検討会」報告書公表

2 イタイイタイ病患者および要観察者の救済

昭和47年に名古屋高等裁判所金沢支部における裁判の判決に基づき、当事者間で誓約、協定が締結されました。これにより、昭和48年度からは原因企業において、イタイイタイ病認定患者と要観察者に対するすべての医療費等が負担



富山県庁 健康課
感染症・疾病対策班班長
加納 紅代

平成6年東京大学大学院医学系研究科修士、医師、医学博士。(財)癌研究会癌研究所、自治医科大学等では病理医として勤務。24年より現職。

されることとなりました。昭和49年には、現在の「公害健康被害の補償等に関する法律」(公健法)が施行され、同法の規定により、本人の申請に基づき「富山県公害健康被害認定審査会」に諮り、イタイイタイ病患者認定が行われています。これまでのイタイイタイ病認定患者は196名、要観察者は337名(いずれも平成26年1月時点)となっております。「イタイイタイ病の認定条件」(環境省「庁」通知より)

- (1)カドミウム濃厚汚染地域に居住し、カドミウムに対する暴露歴があったこと
- (2)先天性ではなく、成年期以後(主として更年期以後の女性)に発現したこと
- (3)尿管障害が認められたこと
- (4)骨粗しょう症を伴う骨軟化症の所見が認められること

3 神通川流域における住民健康調査

環境省(庁)と富山県では、昭和54年以降、神通川流域において「カドミウム汚染地域住民健康影響調査」(以下、「健康調査」といふ)を実施しています。

この健康調査は、流域住民の健康状態の把握など健康管理に役立てられているほか、カドミウムによる健康影響の解明に資するため、環境省が設置する医学専門家からなる検討会において解析・評価が行われています。

平成9年度以降はいわゆる「新方式」が導入され、この方式では、調査対象者が節目年齢に達した年(70、75、80、85歳...)に健康調査の案内を送付しています。健康調査では、1次検診の結果、精密検診対象となった方には1年後、対象とならなかった方には5年後に再度、健康調査の案内を行い、精密検診受診者に対しては、保健師が個別訪問等のうえ、検診時の診察結果等に基づき、保健指導や生活指導等を実施しています。

【健康調査の調査方法の概要】
(平成9年度以降のいわゆる「新方式」)

健康調査の段階	内 容
1次検診	尿検査(尿のpH、尿中β ₂ ミクログロブリン、尿中クレアチニン、尿蛋白定性・半定量)、問診票
↓	尿中β ₂ ミクログロブリン≧5mg/gCr、または、尿蛋白±以上の場合は精密検診の対象
精密検診	尿検査(24時間尿)、血液検査、骨のX線検査、診察 等

【最近の健康調査の受診率の推移】

過去5年間の健康調査の対象者となった方は、1971人(H21)、2015人(H22)、1755人(H23)、1862人(H24)、1725人(H25)となっております。健康調査の案内には、健康調査受診の希望に関する返信用郵便書簡を同封し、返信がない場合には再通知を行うなど、対象者全員に個別案内を行っています。1次検診の受診率は30%台にとどまっています。

【当事者間における全面解決後に行われる平成26年度の健康調査】
平成25年12月の当事者間における「全面解決」を踏まえ、1人

でも多くの方に健康調査を受診し健康管理に役立てていただけるよう、富山県では環境省のご理解の下、平成26年1月に健康調査対象者全員(7461名)に一斉に受診案内を送付し受診を呼びかけました。案内には、神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会とイタイイタイ病対策協議会からの住民への手紙、三井金属鉱業からの住民への「神通川流域住民健康管理支援制度」のお知らせも同封されています。今回の全面解決を契機に健康調査を受診され、健康管理に役立てていただけるよう、呼びかけを強化していきます。

4 富山県立イタイイタイ病資料館

イタイイタイ病の発生から長い年月が経過し、関係者の高齢化が進み、関係資料の散逸も懸念される状況となる中、平成24年4月、「富山県立イタイイタイ病資料館」が開館しました。この資料館は、子どもたちをはじめ国内外の幅広い年代の人々が「イタイイタイ病の恐ろしさ」を知り、「克服の歴史」に学ぶ場であるとともに、環境と

健康を大切にするライフスタイルの確立や地域づくり)に取り組みことをめざす未来志向型の資料館でもあります。館内の展示は、子どもたちにも興味をもって学んでもらえるよう、イタイイタイ病の発生を時代の流れに沿って、ジオラマ、絵本、映像を組み合わせて解説しています。また、世界的に地球環境や公害に対する関心が高まっている中で、イタイイタイ病の教訓について、アジア諸国をはじめ海外への情報発信にも積極的に取り組んでいます。

5 結びに

イタイイタイ病の長く重い歴史を振り返り、患者とご家族、地域の皆さまが負ってきた筆舌に尽くしがたい痛みと苦しみを思うとき、イタイイタイ病のような悲惨な公害が二度と繰り返されることのないよう心から願うものであります。

このコーナーにご紹介いただいた宇田英典先生には、厚生労働科学研究費補助金・健康安全・危機管理対策総合研究事業等でお世話になった際、「保健所の真心を教えてください」と感じています。